

<p>ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000700) 主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies(Basic knowledge) 地域と香川大学Ⅰ Study on Areas we live in and Kagawa University</p>	<p>科目区分 主題科目</p> <p>水準 学士:基礎科目 分野 主題C</p> <p>授業形態 講義 eラーニング</p>	<p>時間割 2021年度 2Q集中</p> <p>提供部局:大教センター DPコード:ebx</p> <p>単位数 1</p>	<p>対象年次 1~4</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 岡田 徹太郎, 林 敏浩</p>	<p>関連授業科目 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 e-Learning による学修と自学学修の計約6時間 × 8回 = 45時間以上</p>			
<p>授業の概要 本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。</p>			
<p>授業の目的 地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>本授業は共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応しており、以下のような到達目標を設定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終課題は、書式の定められたレポートによって合否を判定する。）</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】 オリエンテーション回：本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①：本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②：本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①：地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②：地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③：地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④：地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤：地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学修への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C一講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。</p>			
<p>【授業及び学修の方法】 授業は動画を視聴する形態（eラーニング）となっています。各回の総視聴時間は概ね90分を目安に作成されていますが、動画は内容によって分割しているため長短に差があります。自学自修を合わせた、平均約6時間を各回の学修時間と考えてください。計画的に映像視聴を進めて下さい。各回には小テストを課しますので、視聴が終わったら、必ず受験して下さい。全ての授業を受講した後に、課題レポートに取り組ん</p>			

で下さい。

【自学自修のためのアドバイス】

第1回 香川大学の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「大学憲章」や「学生憲章」等に触れ、再度確認しておく。(3時間)

第2回 それぞれ所属する学部の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「ディプロマポリシー」や「カリキュラムポリシー」等に触れ、再度確認をしておく。(5時間)

第3、4回 香川県の概要を知るために、香川県並びに県内市町の総合振興計画等に目を通し、香川県の特色や課題について理解しておく。授業後に、歴史や文化芸能、伝統産業、遺跡・遺産等について、また現在の産業や観光、福祉、教育等について、興味関心に基づき調べ学修をしておく。(6時間)

第5回 大学卒業後の就職を見据えて、まずは香川県の就業環境について調べておく。自分自身のキャリアを意識しつつ、関連業種について調べるとよい。授業後に、不明な点や疑問に思った点などがあれば、キャリア支援センターや図書館等で資料にあたったり、就活中の先輩に話を聞いたり、かがわ若者サポートステーション等に足を運んだりすることを勧める。(8時間)

第6回 香川大学ではフィールドワーク科目の拡充に努めている。全学共通科目では主題C、各学部の専門科目の中にも現場で学ぶ機会が準備されている。まずは、シラバス等を調べることで理解を深め、受講している学生や担当教員等へ質問するなど情報収集を行う。(3時間)

第7回 香川県の地域課題にはどのようなものがあるのかを調べておく。それらの課題の中には、香川大学を中心にすでに取組が行われているものがある。その内容について、インターネット等で検索して情報収集を行う。(2時間)

第8回 課題レポートの作成を行う。(3時間)

教科書・参考書等

LMS(学修管理システム: Learning Management System)で紹介する。

オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。

<p>ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000701) 主題C-基礎科目「地域理解」 Regional studies(Basic knowledge) 地域と香川大学 Study on Areas we live in and Kagawa University</p>	<p>科目区分 主題科目 水準 学士:基礎科目 分野 主題C 授業形態 講義 eラーニング</p>	<p>時間割 2021年度 4Q集中 提供部局:大教センター DPコード:ebx 単位数 1</p>	<p>対象年次 1~4 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 岡田 徹太郎, 林 敏浩</p>	<p>関連授業科目 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 e-Learning による学修と自学学修の計約6時間 × 8回 = 45時間以上</p>			
<p>授業の概要 本授業は「地域の中にある香川大学」と「地域理解」の二部構成となる。前者は香川大学の成り立ちや変遷、特色のある研究や教育、社会貢献活動について学ぶ。後者は本学が位置する地域（主に香川）の特色、歴史や文化、地勢、産業、観光等について幅広く学ぶ。</p>			
<p>授業の目的 地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、地域に根ざした学生中心の大学を標榜する本学の精神を学ぶことを目的とする。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>本授業は共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応しており、以下のような到達目標を設定している。 1. 本学の成り立ちや歴史、輩出された人材、特色ある研究やその成果、社会貢献活動等について理解することで、本学への帰属意識を高めることができる。 2. 本学の位置する地域（主に香川）のよさや魅力を認識するとともに、それらの担い手や仕掛け人等の存在や活動を理解することができる。 3. 地域（主に香川）の問題や課題を認識するとともに、それらの解決に向けて取り組む人びとや組織・団体の存在に気付くことができる。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>成績評価は合格・不合格の認定形式で行う。（各回の授業視聴後に、知識や理解度を測定するための選択式の問題を出す。最終課題は、書式の定められたレポートによって合否を判定する。）</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】 オリエンテーション回：本授業のねらい、概要（内容紹介）、受講方法、評価等を確認する。 第1回 地域の中にある香川大学①：本学の成り立ちや変遷、歴史を多面的に解説する。学長および教育担当理事が、本学の経営理念や存在意義、本学の目指す大学像や学生教育等に関してメッセージを送る。 第2回 地域の中にある香川大学②：本学の研究・教育・社会貢献の特色。本学のプロモーションビデオ等も活用し、本学の魅力をソフトに伝える。それを受けて、現学部長が学部紹介を地域貢献（研究面での貢献も含む）と人材育成の文脈を中心にその魅力と特色を紹介する。 第3回 地域理解①：地域（主に香川）の特色を紹介。香川県や県内市町あるいはその近隣の地勢や歴史、文化芸術、伝統芸能・行事、伝統産業・遺産、人物等について触れる。 第4回 地域理解②：地域（主に香川）の産業や資源に関する特色を紹介する。香川県および市町のプロモーションビデオ等も活用しつつ、香川県についての理解を深める。 第5回 地域理解③：地域（主に香川）で働く意識の醸成。産業振興を担当する行政職員へのインタビューから始まり、香川県内の産業や就業状況についての課題や展望について理解する。また、本学学生の近年の就職状況や就職支援について、COC+関係者やキャリア支援センターより解説する。 第6回 地域理解④：地域（主に香川）での学修（フィールドワーク型授業）への誘い。瀬戸内地域活性化プロジェクトやインターンシップの取組を中心に、地域で学ぶことの意義や魅力について紹介する。街活性化や産業振興、観光振興、定住促進等のテーマごとに、学生のセンスを生かした主体的取組を中心とする。 第7回 地域理解⑤：地域（主に香川）への責任を果たせる人となるために。本学学生には地域の責任ある担い手として、職業人・社会人・地域人として、自ら進んで役割を果たしていく気概が求められる。本学が取り組んでいる地域貢献活動の代表的なものとして、防災、里山・里海、水資源等がある。「地（知）の拠点」である大学がどのような使命を負っているのかを理解できる内容とする。 第8回 まとめと継続・発展学修への誘い。本授業で取り扱った内容の簡潔なレビューを行い、今後の主題C一講義型科目・実践型科目へ誘う。まとめについては、各界の関係者に登場いただくシンポジウム形式を用い、本学学生に地域志向性を身に付けてもらうことの意義と地域の将来像についての展望を示す。</p>			
<p>【授業及び学修の方法】 授業は動画を視聴する形態（eラーニング）となっています。各回の総視聴時間は概ね90分を目安に作成されていますが、動画は内容によって分割しているため長短に差があります。自学自修を合わせた、平均約6時間を各回の学修時間と考えてください。計画的に映像視聴を進めて下さい。各回には小テストを課しますので、視聴が終わったら、必ず受験して下さい。全ての授業を受講した後に、課題レポートに取り組ん</p>			

で下さい。

【自学自修のためのアドバイス】

第1回 香川大学の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「大学憲章」や「学生憲章」等に触れ、再度確認しておく。(3時間)

第2回 それぞれ所属する学部の概要を知るために、あらかじめホームページの閲覧をしておく。授業後に、改めて「ディプロマポリシー」や「カリキュラムポリシー」等に触れ、再度確認をしておく。(5時間)

第3、4回 香川県の概要を知るために、香川県並びに県内市町の総合振興計画等に目を通し、香川県の特色や課題について理解しておく。授業後に、歴史や文化芸能、伝統産業、遺跡・遺産等について、また現在の産業や観光、福祉、教育等について、興味関心に基づき調べ学修をしておく。(6時間)

第5回 大学卒業後の就職を見据えて、まずは香川県の就業環境について調べておく。自分自身のキャリアを意識しつつ、関連業種について調べるとよい。授業後に、不明な点や疑問に思った点などがあれば、キャリア支援センターや図書館等で資料にあたったり、就活中の先輩に話を聞いたり、かがわ若者サポートステーション等に足を運んだりすることを勧める。(8時間)

第6回 香川大学ではフィールドワーク科目の拡充に努めている。全学共通科目では主題C、各学部の専門科目の中にも現場で学ぶ機会が準備されている。まずは、シラバス等を調べることで理解を深め、受講している学生や担当教員等へ質問するなど情報収集を行う。(3時間)

第7回 香川県の地域課題にはどのようなものがあるのかを調べておく。それらの課題の中には、香川大学を中心にすでに取組が行われているものがある。その内容について、インターネット等で検索して情報収集を行う。(2時間)

第8回 課題レポートの作成を行う。(3時間)

教科書・参考書等

LMS(学修管理システム: Learning Management System)で紹介する。

オフィスアワー 基本的には、担当教員がメールでの質問に随時回答する形を取る。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

香川大学や地域の理解を深めるとともに、フィールドワーク型授業の受講へ進んで欲しい。

ナンバリングコード B2THC-ecdG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000702)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q木5	対象年次 1～
主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災リテラシー養成講座(災害を知る)A Disasters Literacy Education A	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(第2クォーター) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習(事前15時間, 事後15時間)			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ2・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義とQ2・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス:防災士を目指そう(防災士の役割) 第2週 近年の自然災害に学ぶ -災害現場からの教訓- 第3週 地震・津波災害と対策 第4週 火山噴火のしくみと被害 第5週 風水害と対策 第6週 土砂災害と対策 第7週 防災気象情報の知識と活用-公的機関による予警報- 第8週 中間テスト(45分)と火災と防火対策(45分) なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
【講義方法】 本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。 なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。			
教科書・参考書等 教科書:日本防災士機構編集発行「令和3年度防災士教本」(頒布価格:3500円)			

<p>(受講者は必ず購入すること) テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日11：00－12：30）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。 平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その1」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。</p>
<p>教員の実務経験との関連 防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者がオムニバス形式で講義。</p>

ナンバリングコード B2THC-ecdG-1N-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000703)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 2Q木5	対象年次 1～
主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災リテラシー養成講座(災害を知る)B Disasters Literacy Education B	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 山中 稔, 寺尾 徹, 井面 仁志	関連授業科目 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習		
	履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(第1クォーター) 防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)		
学習時間 講義90分×7.5回 + 自学自習(事前学習15時間・事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義とQ1・後期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義とQ1・第2学期の防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 地震に関する知見・情報 第2週 災害報道—災害情報の入手・発信と流言・風評— 第3週 災害とライフライン 第4週 災害と交通インフラ—四国の防災対策— 第5週 行政の災害対応—香川県の防災対策— 第6週 先人の教えに学ぶローテク防災術 第7週 都市防災 第8週 まとめと修了式(45分) 試験(45分) なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			
【講義方法】 本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。 なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。			
教科書・参考書等 教科書:日本防災士機構編集発行「令和3年度防災士教本」(頒布価格:3500円)			

<p>(受講者は必ず購入すること) テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日11：00－12：30）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、2学期の防災コンピテンシー養成講座（災害に備える）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。 平成30年度開講の「防災リテラシー養成講座（災害を知る）その2」の単位を取得した学生は本授業を受講できません。</p>
<p>教員の実務経験との関連 防災・危機管理の実務経験を有する行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。</p>

ナンバリングコード B2THC-ebxG-1N-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000704) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編 History and Culture of Shikoku area first period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q集中	対象年次 1~
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 守田 逸人, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
	履修推奨科目 四国の歴史と文化 その2 文化編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要			
四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的			
四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史について知識を得ることができる。また、現代的課題でもある四国地域と京阪神地域との結びつきなどについて、理解を深めることもできる。本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目標である。			
到達目標			
1. 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
ガイダンスを除く授業7回分の小テストを各6点満点(計42点満点)、期末レポート課題を58点満点の合計100点満点とし、合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
① ガイダンス(授業概要、受講方法等について)、平安末阿波武士と仏教文化(大石 雅章/鳴門教育大学) ② 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1)(田中健二/香川大学教育学部) ③ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(2)(田中健二/香川大学教育学部) ④ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3)(田中健二/香川大学教育学部) ⑤ 中世の瀬戸内海水運(1)(田中健二/香川大学教育学部) ⑥ 中世の瀬戸内海水運(2)(田中健二/香川大学教育学部) ⑦ 阿波商人の活躍と江戸時代の経済(桑原恵/徳島大学総合科学部) ⑧ 期末レポート(オンライン)			
【自学自習について】			
各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。			
【授業時間外学習について】			
e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。			
教科書・参考書等			
特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。電子メール(rekishil-c@kagawa-u.ac.jp)を利用すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
本授業はフルオンデマンドのe-Learning形態で実施するため講義室での対面授業は行わない。また、受講制限をかける場合がある。詳細は大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブサイト(URL: https://chiplae.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)にある「知プラe科目の履修案内」に記載されているので必ず熟読のこと。本授業を履修するためには、各自パソコンから教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要となる。各登録は期限内に完了すること。もし期限内に登録が完了していない場合は履修を許可しない。また、受講方法の詳細については第1回(ガイダンス)で説明しているので必ず視聴すること。 各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。			
平成30年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。			

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000705) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の歴史と文化 その2 文化編 History and Culture of Shikoku area second period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 2Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 :大教センター DPコード :ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 渡邊 史郎, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編 履修推奨科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要 四国の文化について講義する。各回では、四国に関わる文学作品などに関わるテーマを取り上げる。			
授業の目的 四国の風土や歴史に関わる文学や方言についていくらかの知識を得ることで、自らが暮らす地域について深く知るきっかけをつくることは重要である。本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目標である。			
到達目標			
1. 四国地域の文化についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト (7回:各6点満点)と期末レポート課題 (1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。またレポートに剽窃が認められた場合も「不可」となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1 ガイダンス、四国の文化に向けて (渡邊史郎/香川大学教育学部) 2 四国の万葉集と古代史 (田中省造/四国大学文学部) 3 讃岐における崇徳院と西行の物語——『雨月物語』 「白峯」を中心に—— (北原圭一郎/香川大学教育学部) 4 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に—— (池田 恭哉/香川大学教育学部) 5 物理学者・寺田寅彦の文学 (永橋 禎子/高知県立文学館) 6 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面 (渡邊史郎/香川大学教育学部) 7 愛媛を歩く——方言の旅—— (清水 史/愛媛大学法文学部) 8 期末レポート (オンライン) ※各回の担当者の所属については、コンテンツ収録当時のものです。 …… 7までのコンテンツを視聴したのち、各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い主体的に学習に努めること。期末レポートについては、第1回のレポートに関するガイダンスをよく理解して取り組むこと。特にどのようなものが剽窃に当たるかを厳密に理解して取り組むこと。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。 また、科目によって受講制限をかける場合がある。 なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別に e-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 特に指定しない。			
オフィスアワー 特に設けない。Moodle内のコミュニケーションツール (フォーラム等) や第1回 (ガイダンス) で通知するメールアドレスを活用すること。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・ e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。
- ・ 2018年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できません。

教員の実務経験との関連

講師陣には、地域の文学館に勤務する方が含まれている。したがって、地域における文化政策の方向性についても参考になるだろう。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000706) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の地域振興 その1 Local Development of Shikoku area first period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局: 大教センター DPコード: ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の地域振興 その2		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度 四国における地域振興の取組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。これに関わる代表的な事例を取り上げます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) ガイダンス: 「四国の地域振興 その1」で何を学ぶか? (2) 讃岐のハマチ養殖と野網和三郎 (嶋野勝路 (全国海水養魚協会会長)) (3) 讃岐うどん (香川政明 (さぬき麺業社長)) (4) 香川の手袋産業 (原直行 (香川大学)) (5) 香川の石材産業 (西成典久 (香川大学)) (6) 高知の林業と製造業 (石筒覚・霜田博史 (高知大学)) (7) 動画による地域のPR (林敏浩 (香川大学)) (8) 四万十の今と昔 (原直行 (香川大学)) ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのもの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000707) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の地域振興 その2 Local Development of Shikoku area second period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 : 大教センター DPコード: ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 四国の地域振興 その1		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 【キーワード】 四国、地域振興、地場産業、地方制度 四国における地域振興の取組みを以下の側面から学びます。第1は、産業です。各県の代表的な地場産業が地域の中で果たしている役割や活性化策について考えます。第2は、交流や文化振興による地域づくりです。これに関わる代表的な事例を取り上げます。第3は、地方制度です。近年の地方分権改革との関わりで各県の将来像を考えます。これらを通して私たちが居住する四国という地域社会への理解と関心を培い、地域活性化への道を探ります。			
授業の目的 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状を理解し地域活性化に関する実践的関心を培うことができるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。 2. 地場産業、地方分権改革、文化・観光といった観点から四国地域の現状認識や地域活性化に関して概要を説明できる (香川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の課題 (8回: 各最高10点) と最終課題 (1回: 最高20点) を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数 (最大8回) が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1) ガイダンス: 「四国の地域振興 その2」で何を学ぶか? (2) 文化力とまちづくり (竹内守善 (香川大学非常勤講師)) (3) 地域振興とメディア (林敏浩 (香川大学)) (4) アートとエコツーリズム (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (5) 共同体の崩壊 (石井亨 (香川大学非常勤講師)) (6) 四国四県の政治経済の歴史 (八幡和郎 (徳島文理大学)) (7) 四国の展望—四県知事インタビュー— (八幡和郎 (徳島文理大学)) (8) 四国の展望—四県知事インタビュー— (八幡和郎 (徳島文理大学))			
※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。			
【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System) にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修 (コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、春休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 時間：金曜日1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考：不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となりますが、所定の日（詳細はガイダンス等を参照）までに登録が完了していない場合は履修を許可しません。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけてください。その他受講方法の詳細については、第1回（ガイダンス）を視聴してください。

締切間際で提出される課題にファイル名の不備やファイルそのもの間違いが多発しており、課題が受理できないケースも多くなっています。締切後の再提出は認めていませんので、よく確認して余裕を持って課題提出ください。

【注意】 2018年度以前に「四国の地域振興」を単位修得している場合は履修できません。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000708) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その1 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area first period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 :大教センター DPコード :ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探る旅に出よう。地形が語る壮大な四国形成史のドラマ。豪雨地帯と乾燥地帯の同居する島に生きる人々の水資源を求める知恵のかずかず。瀬戸内の自然環境の魅力と里海再生のとりくみ。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然を地球誌の中にとらえ直す視点の転換を体験する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国の自然から魅力を見出し、地域社会に活かせるようになる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1部: 四国の自然環境 (1) ガイダンス・ため池の歴史 黒川義夫 (前香川県農政水産部) (2) 四国の河川環境と暮らし・防災 古田昇 (徳島文理大学文学部教授) (3) 四国の気候と水資源 寺尾徹 (香川大学教育学部教授) (4) 讃岐の地形と地質の面白さ 長谷川修一 (香川大学工学部教授) 第2部: 瀬戸内海の環境 (5) 四国の国立公園の魅力 齋藤倫実 (環境省高松自然保護官事務所自然保護官) (6) 瀬戸内海の浅海環境の抱える問題 多田邦尚 (香川大学農学部教授) (7) 里海と里山とのつながりについて考える (仮題) 田中丈裕 (里海づくり研究会議事務局長) (8) 期末レポート ※授業内容は諸事情により変更になることがあります。			
【授業時間外学習について】 次回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等にあたってみよう (準備学習2時間) e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください (事後学習2時間)。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール (shizen-c@kagawa-u.ac.jp) を利用してください。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。
平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体等の実務経験のある教員が、地域の自然環境の保全等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の自然環境の考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000709) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 四国の自然環境と防災 その2 Natural Environment and Disaster Measures of Shikoku Area second period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 : 大教センター DPコード : ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 憲市	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習 (準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
授業の概要 四国に学び生活しているが、本当に四国のことを知っていると言えるだろうか。何気なく見逃している四国の自然のすがたを科学することで見えてくる、驚くような自然環境の仕組みを探る旅に出よう。地球最大級のプレート境界型地震・東南海・南海地震の危険が迫る太平洋岸。それとたたかおうと立ち上がる地域の力。自然の営みと人間の関わり方の新たな模索。21世紀の四国を展望するための視点の数々を提供する講義群である。			
授業の目的 四国地域の自然の特徴と魅力を学ぶことで「地域」を理解し、防災や環境の保全、地域の活性化にも活かせるようになる。			
到達目標			
1. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 四国の自然の循環と災害のメカニズムを正確に理解する (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 四国が直面する豪雨や地震などに伴う災害の脅威に正しく対処できるようになる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業毎の小テスト (7回:各6点満点、特に到達目標1と2に対応) と期末レポート課題 (1回:58点満点、特に到達目標3に対応) の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第3部: 災害に備える (1) ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動 片岡信彦 (日本損保協会) (2) 四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害 西山賢一 (徳島大学総合科学部准教授) (3) 先人の教えに学ぶ—四国防災88話— 松尾裕治 (JACIC四国地方センター) (4) 災害と交通インフラ—四国の防災対策— 植松真二 (国土交通省四国地方整備局総括防災調整官)			
第4部: 持続可能な自然と社会 (5) ジオパークは人を幸せにできるのか 柚洞一央 (徳山大学経済学部准教授) (6) 持続可能な社会づくりのための環境教育① 小林修 (愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授) (7) 持続可能な社会づくりのための環境教育② (8) 期末レポート			
【授業時間外学習について】 今回のテーマを念頭に、自分の興味に引き付けて文献、資料等にあたってみよう (準備学習2時間) e-e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください (事後学習2時間)。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム (ドリームキャンパス) の履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール (shizen-c@kagawa-u.ac.jp) を利用してください。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。
平成30年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

中央省庁や地方自治体、民間団体等の実務経験のある教員が、地域の防災等に取り組んできた実務経験をもとに、瀬戸内地域の防災に係わる考察力を身につけるための教育を行っている。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000710) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川の文化と歴史 Culture and History of Kagawa	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 2Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 :大教センター DPコード :ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 山田 香織	関連授業科目 特になし 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回 + 自学自修 (事前学修 16時間 + 事後学修 16時間)			
授業の概要 香川の地域特性のひとつとして、瀬戸内海とこれにまつわる生活環境や文化を挙げるができる。本科目では、瀬戸内海地域に焦点を絞り、歴史と生活・習俗について概観する。毎回、各分野・地域の専門家が文化と歴史にまつわるトピックについて講義をおこなう形式ですすめていく。			
授業の目的 瀬戸内地域を中心とした香川に関する知見を深めるとともに、同地域が抱える課題とその解決に向けた取り組みの様態について理解することを目的とする。			
到達目標			
瀬戸内地域を中心とした香川の地域的特徴と課題について説明ができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 各回の小テストおよび期末レポートにより評価する。 配点:109点満点 (小テスト 64点 (各8点×8回) + 期末レポート 45点)。 合格基準:109点満点を100点満点に換算した上で60点以上を合格とする。なお、小テスト未受験回数が3回以上の受講生には、期末レポートの提出資格を与えない。期末レポートを提出しても評価対象としない。すべての小テスト及び期末試験はMoodle (LMS) を用いてオンラインで実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
詳しい受講方法 (小テストの受験の仕方、受験期間、配信映像の視聴期間等) についてはmoodle内の本科目ページにて説明をしています。受講にあたっては、必ずそちらも一読してください。			
第1回 香川の歴史 第2回 香川における文化振興の現状を理解する 第3回 離島と離島振興について理解する 第4回 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する 第5回 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし 第6回 伊吹島の事例 第7回 魚食文化について 第8回 香川の島々と瀬戸内国際芸術祭 ※ 授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。			
【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム (Moodle) 上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ (https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html) に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。			
【授業時間外学習について】 1. 事前学修として、香川に関係する歴史的な出来事について文献等により調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 2. 事前学修として、香川にまつわる文化について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 3. 事前学修として、香川県の離島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 4. 事前学修として、瀬戸内海の景観について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 5. 事前学修として、瀬戸内における漁労の現状について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。 6. 事前学修として、伊吹島について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。			

7. 事前学修として、香川県における魚食の特徴について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。

8. 事前学修として、瀬戸内国際芸術祭について文献等で調査する。事後学修として第1-7回の授業内容を総復習するとともに期末レポートを作成する。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワーは設定しない。Moodle内のコミュニケーションツール（フォーラム等）にて問い合わせをすること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。本講義を履修する際には、各自でパソコンからのMoodle (LMS) への登録が必要となるので、登録作業を所定期間内に完了すること。この期間に登録が完了できなかった場合は、原則、履修を許可しない。本授業内容に関する問い合わせは以下のメールアドレスに送付してください。

kgw-br-c@kagawa-u.ac.jp

2018年度以前に「香川の文化と歴史」（2単位）を単位修得している場合は履修できない。

2019, 2020年度に「香川の文化と歴史 その1」、「香川の文化と歴史 その2」のうち少なくともいずれかの単位を修得している場合は履修できない。

教員の実務経験との関連

本科目はオムニバス形式の授業であり、半数以上の授業回を実務経験のある講師（地方公共団体公務員、学芸員等）が担当している。画像や映像、資料等を多用しながら、それぞれの現場での近年の実践事例や調査研究の成果を提示している。

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000711) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川を学ぶ その1 Culture and History of Kagawa first period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 3Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局: 大教センター DPコード: ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目 香川を学ぶ その2		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自修 (準備学修 15時間 + 事後学修 15時間)			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、四国遍路、栗林公園、瀬戸内海運の歴史、文化財、及び伝統食の一端を紹介する。			
授業の目的 香川県(讃岐)の伝統食や文化財、香川県内の産業に関する事柄など、香川県にまつわる歴史、文化、及び伝統に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			
1. 讃岐地方の歴史や文化を理解できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域社会の現状について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 地域社会の課題を探究し、その解決策を提示できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回 50点(特に到達目標1に対応)、期末レポート 50点(特に到達目標2及び3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出(受験)していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス(授業概要等)、四国遍路の歴史 2. 讃岐の札所と遍路道 3. 近世の讃岐国における遍路の実態 4. 栗林公園の美と歴史 5. 瀬戸内海運の歴史 6. 文化財と観光資源論 7. 讃岐の伝統食 8. 期末レポート 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ(https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。 【自学自修のためのアドバイス】 1. 事前学修として、弘法大師について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間) 2. 事前学修として、香川県にある札所(寺院名)について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間) 3. 事前学修として、中世における遍路について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)			

<p>4. 事前学修として、大名庭園について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)</p> <p>5. 事前学修として、近世における本州と四国間の交通網について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)</p> <p>6. 事前学修として、観光の定義について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)</p> <p>7. 事前学修として、自身の出身地の特産物や伝統食について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)</p> <p>8. 事前学修として第1-7回の授業内容を復習し、授業時間と事後学修時間を利用して期末レポートを作成する。(事前学修1時間, 事後学修1時間)</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>特になし</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので、電子メール (kgw01-c@kagawa-u.ac.jp) を利用のこと。</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお、平成30年度以前に「香川を学ぶ(セメスター科目名)」を単位修得している場合は履修できない。</p>

ナンバリングコード B2THC-ebcG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード: 000712) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 香川を学ぶ その2 Culture and History of Kagawa second period	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 4Q集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局: 大教センター DPコード: ebc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 e ラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤本 憲市, 林 敏浩	関連授業科目 香川を学ぶ その1 履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自修 (事前学修 15時間 + 事後学修 15時間)			
授業の概要 香川県に関することを多視的な側面から取り上げて講義する。具体的には、香川における産業とまちづくり事例、環境問題などに関する事柄を紹介する。			
授業の目的 香川県(讃岐)のまちづくり事例、産業、水問題、風水害に関する事柄など、香川県にまつわる産業及び環境に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになることが本授業の目的である。			
到達目標			
1. 香川県におけるまちづくり、産業、及び自然環境について理解できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域社会の現状について説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 地域社会の課題を探究し、その解決策を提示できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト7回 50点(特に到達目標1に対応)、期末レポート 50点(特に到達目標2及び3に対応)により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出(受験)していない場合は、期末レポートの提出資格を与えない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス(授業概要等)、まちづくりの事例 2. 讃岐の盆栽 3. 香川の手袋産業 4. 大学と地場産業との連携 5. 香川の水を考える 6. ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション 7. 風水害と対策 8. 期末レポート 第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ(https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。 【自学自修のためのアドバイス】 1. 事前学修として、高松市のまちづくり戦略計画について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間、事後学修2時間) 2. 事前学修として、盆栽の起源・歴史について文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間、事後学修2時間) 3. 事前学修として、手袋に関する統計データを文献等で調査する。事後学修として、授業内容をまとめるとと			

- もに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
4. 事前学修として, 産学連携の事例について文献等で調査する。事後学修として, 授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
 5. 事前学修として, 過去に本邦で発生した濁水事例について文献等で調査する。事後学修として, 授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
 6. 事前学修として, 集中豪雨の定義と過去の発生事例について文献等で調査する。事後学修として, 授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
 7. 事前学修として, 風水害の定義と過去の発生事例について文献等で調査する。事後学修として, 授業内容をまとめるとともに小テストを受験する。(事前学修2時間, 事後学修2時間)
 8. 事前学修として第1-7回の授業内容を復習し, 授業時間と事後学修の時間を利用して期末レポートを作成する。(事前学修1時間, 事後学修1時間)

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワーは設定しないので, 電子メール (kgw01-c@kagawa-u.ac.jp) を利用のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

パソコンの基本的な使い方など, e-Learning授業を受講するための知識と技術を有していること。なお, 平成30年度以前に「香川を学ぶ(セメスター科目名)」を単位修得している場合は履修できない。

ナンバリングコード B2THC-ebxG-10-Le1 授業科目名 (時間割コード:000713) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 知プラe科目 阿波学 Awa-Gaku	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 :大教センター DPコード:ebx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 eラーニング	単位数 1	
担当教員名 藤原 伸彦, 宮下 晃一, 竹口 幸志	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 授業 (e-Learning) 90分×8回+自学自習			
授業の概要 【キーワード】(1) 四国遍路 (2) 俳句の心理学 (3) 四国遍路の歴史, 文化, 地理 (4) 歩き遍路と教育 四国遍路の歴史や文化, 歩き遍路体験者の心理等について, 講義を通して学ぶ。			
授業の目的 四国の文化アイデンティティたる遍路について学ぶことを通じ, 地域理解を深め, 地域の教育リーダーとしての資質を養う。講義を通して, 遍路に関する基礎理解を形成する。遍路の歴史や文化, 遍路と地域社会のかかわりなどについて知る。			
到達目標			
講義により, 地域社会における遍路文化に関する基礎理解を得る。歩き遍路体験により, 遍路地域の文化や自然, 遍路を支える人々の活動, 自治体の取組などを直接知る。以上を通じ, 教育や学校にたずさわろうとする者にとっての, 地域文化を理解・尊重する基盤的態度・視座を形成する。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 課題の提出状況及び内容, フォーラムにおけるディスカッションの状況及び内容等を総合的に評価する。ただし, 3分の2以上の出席を要する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション 第2回 四国遍路と俳句の心理学 第3回 四国遍路と地理 第4回 四国遍路に関する歴史(近世) 第5回 歩き遍路と教育(1) 第6回 歩き遍路と教育(2) 第7回 歩き遍路と教育(3) 第8回 まとめ 【授業時間外学習について】 毎回課題が出るので, 必ず取り組むこと。課題の提出を持って出席とする。 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また, 科目によって受講制限をかける場合がある。なお, 教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)の登録が必要なので, 大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している香川大学学生向け履修案内をよく読んで, 期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/			
教科書・参考書等 特になし			
オフィスアワー 電子メール(fujihara@naruto-u.ac.jp)で問い合わせること			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 令和2年度以前に「阿波学」を単位修得している場合は履修できない。 動画には著作権があるため, むやみにダウンロードなどしないこと。			

ナンバリングコード B2THC-edcG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000714) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 地域をデザインする思考と実践 Consideration and Practice of Design Local area	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:edc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目 まちづくり論(経済学部開設科目)		
	履修推奨科目 まちづくり論(経済学部開設科目)		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)			
授業の概要 自分の住んでいる地域をより良くしていきたい、持続可能で豊かな地域の実現に貢献したい、地域と関わりたい、こうした思いを持って入学してきた学生に向けて、本講では、どうすれば地域の課題解決に向けた取り組みを具現化(デザイン)することができるか、その考え方(思考)と実現方法(実践)について様々な事例をもとに講義を進めていく。本講は、特に地域の活性化やまちづくり政策、観光振興や環境デザインといった分野を目指す初学者に向けた講義内容となっている。			
授業の目的 地域の衰退や持続性への懸念が社会問題となって久しい状況にある。人口が増加する規模拡大社会から人口が減少する規模縮小社会へと移行するなかで、日本の地方では、地域経済、自然、環境、医療、食、文化、コミュニティなど、連関する分野で様々な課題が表出している。本講では、こうした日本の地域をめぐる課題や現状を理解したうえで、地域との対話と実践を通じて課題解決を図る立場から、その思考と実践に関する基礎的な知識や考え方を習得することを目的としている。 また、持続可能な地域づくりを意識的かつ主体的に進めていくためには、自分一人で全てを成し遂げることは難しく、その地域と深い関わりを持つ他者との協力関係を築き、「一人の百歩より百人の一步」が生み出される偶然的状況を意識的につくり出していく必要がある。そのためには、地域課題に関する知識だけでなく、実践者としての倫理観やリーダーシップを自ら育成していくことも求められている。			
到達目標			
1. 日本の地域をめぐる現状と課題を他人に説明することができる。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. アイデア思考の基礎的なスキルを習得することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 地域での課題解決に向けた実践活動について理解を深め、実践に向けた企画を立案することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
①講義の取り組みと提出物(50点) ②レポートもしくはテスト(50点)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 ①イントロダクション 地域のミライを構想する イタリア中小都市マテーラとの比較 地域の豊かさとは ②地域とどう関わるか 地域と対話し実践する私たちの挑戦 学生プロジェクト紹介 ③地域をデザインする思考法(1) まちづくりのプランニング 問題解決思考・ゼロベース思考・ロジックツリー ④地域をデザインする思考法(2) 論理的思考からアイデア思考へ 課題を融合する問題解決思考に向けて ⑤地域をデザインする実践法(1) 地域課題融合型の課題解決 屋島山上ちようちんカフェの取り組み ⑥地域をデザインする実践法(2) 持続可能なコミュニティデザイン つながりの場をつくる五郷里づくりの会 ⑦地域をデザインする実践法(3) プロジェクトの起こし方 will・can・must企画3円について ⑧まとめ 【授業及び学習の方法】 授業は講義形式とグループワーク形式によって進めていきます。 毎回、授業後に講義の感想や気付きについてリアクションペーパーを提出してもらいます。 この科目は基本的に対面授業で実施しますが、一部の授業回では遠隔授業とする可能性があります。 なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

【自学自習についてのアドバイス】

全体を通じて、地域振興やまちづくりに関する参考書や記事を事前に読み、実際にいくつかの現場を訪れることを薦めます。

第2回 地域に対する自分自身の問題意識を明確化するためにも、自分の考えを文章化してみましょう。

第3～4回 自分自身が関心をもつ地域の課題を発見し、課題解決に向けた方策を考えてみましょう。

第5～7回 地域の課題解決や魅力創造のプランをどう実現するか、様々な事例を調べてみましょう。

教科書・参考書等

特定の教科書は使用せず、参考書は適宜紹介します。

オフィスアワー 日時については講義中に伝えます。

研究室の場所は幸町南3号館3階の西成研究室です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

地域の課題解決や魅力創造に貢献したいと思って入学した新入生はぜひ履修してください。

もちろん、地域の活性化に関心の強い2年生以上の学生メンバーも履修おすすめします。

本講はグループワーク等、他者と話し合う機会が講義中に多くあるため、それを理解したうえで履修してください。遠隔式の場合でも、グループワークは基本的にカメラオンで参加してもらいます。

教員の実務経験との関連

国や自治体の計画立案や環境・緑地整備事業に関する勤務経験があります。

企業や大学での実務経験をもとに、講義内容を組み立てていきます。

ナンバリングコード B2THC-ecxG-10-Lp1 授業科目名 (時間割コード:000715) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 地域課題発見・解決のための経済分析A Economic Approach to Regional Challenges A	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 3Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 PBL	単位数 1	
担当教員名 長町 康平	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 この授業では、経済学の観点から、「移住・定住促進」「雇用創出」というテーマに沿って地域の課題を設定し、その解決策の立案に資する知見を得るための研究デザインについて検討する。具体的には、テーマに沿って検討・設定した課題に対して経済学(特に、人々の意思決定)の観点から考察を加えて明らかにすべき事実や検証すべき仮説を探索する。その上で、それらの事実・仮説を解明・検証するためのデータ収集(実験・アンケート等の調査方法)や統計分析(主に、回帰分析)といった研究方法について検討する。			
授業の目的 この授業の目的は、地域の課題から経済学的な問いを見つけ出し、それに回答を与えるための研究方法を検討する作業を通じて、地域課題に対する科学的アプローチのイメージをつかむことである。ビジネスや政策においてデータサイエンスに対するニーズが高まっていることから、地域課題に対する科学的アプローチの方法やその可能性と限界を理解することは有益であり、この授業は経済学の例を扱うものである。			
到達目標			
1. 人々の意思決定を扱うための経済学の分析道具を理解する(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 地域課題の中から人々の意思決定に関する問い(解明すべき事実や検証すべき仮説)を導き出す(共通教育スタンダード「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の問いに回答を与えるための研究方法(データ収集・統計分析等)を設定する(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業に5回以上出席している受講生を対象に、次のウェイトで評価する。 授業中の貢献(発言内容・頻度、グループ・ワークでの作業等)20%、宿題40%(宿題1:10%、宿題2:15%、宿題3:15%)、小テスト10%(2回、各5%)、レポート30%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 地域課題の検討 3. 方法論:意思決定と資源配分 4. 方法論:意思決定と選好の測定 5. 地域課題の再考:検証すべき事実・仮説の設定 6. 方法論:因果推論 7. 方法論:回帰分析 8. 調査方法の検討 授業の進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。また、「授業の概要」に記載の地域課題のテーマは予定であり、テーマが追加される場合がある(確定版は第1回で連絡)。			
【授業及び学習の方法】 この授業はすべての回で対面実施を予定している(ただし、状況に応じて遠隔授業を行う可能性がある)。方法論の解説は講義形式で行うが、それ以外は受講生と共に議論・検討していく。必要に応じて、グループワークやグループ単位での課題提出を求める場合がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回:宿題1を通して授業の準備をしておく。 第3-4回:参考書・資料、講義スライドを使って、授業内容について予習・復習する。また、小テストを使って学習の理解度を確認する。 第5回:第2-4回の内容について復習した上で授業に挑む。授業後は授業内容を復習し、宿題2を通して、地域課題について理論的な考察を行う。 第6-7回:参考書・資料、講義スライドを使って、授業内容について予習・復習する。 第8回:第2-7回(特に、第5-7回)の内容について復習する。加えて、宿題3を通して授業の準備をしておく。授業後は授業内容を復習し、レポート課題を通して、調査方法を含めた研究方法全体について検討する。			

教科書・参考書等

教科書はない。参考書として以下を挙げておく。

1. P. クルーグマン・R. ウェルズ (2017) 『クルーグマン ミクロ経済学 (第2版)』東洋経済新報社
2. N.G. マンキュー (2019) 『マンキュー経済学I ミクロ編 (第4版)』東洋経済新報社
3. 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司 (2015) 『統計学 改訂版』有斐閣
4. 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社
5. 中室牧子・津川友介 (2017) 『「原因と結果」の経済学 - データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社

1. と2. は経済学の「ミクロ経済学」と呼ばれる分野のテキスト, 3. は統計分析のテキスト, 4. と5. は因果推論について的一般書である。

オフィスアワー 木曜の14:30から16:00まで (ただし, 祝日を除く)。場所は幸町南4号館3階長町研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業では経済学と統計学の分析道具を用いますが, 必要な場合を除いてテクニカルな内容を排し, 分析のアイデアを直感的に理解・応用できるように努めます。そのため, 経済学と統計学を学んだ経験がなくても受講上は問題ありません。ただし, 記号やグラフ (と少しの数式) を用いる点にはご注意ください。なお, この授業は社会的な課題に対して経済学と統計学を組み合わせた科学的アプローチで接近する一例を紹介するものであり, 経済学と統計学のトピックを網羅的に扱うわけではない点にもご注意ください。この授業が受講者の経済学や統計学, 地域課題への科学的アプローチに対する興味を引き出し, より進んだ学習の動機付けになれば幸いです。

ナンバリングコード B2THC-ecxG-10-Lp1 授業科目名 (時間割コード:000716) 主題C-講義型科目「地域理解」 Regional studies(lecture-based) 地域課題発見・解決のための経済分析B Economic Approach to Regional Challenges B	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 4Q火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 PBL	単位数 1	
担当教員名 長町 康平	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 この授業では、経済学の観点から、「商店街活性化」「都市整備・交通」というテーマに沿って地域の課題を設定し、その解決策の立案に資する知見を得るための研究デザインについて検討する。具体的には、テーマに沿って検討・設定した課題に対して経済学(特に、人々の意思決定)の観点から考察を加えて明らかにすべき事実や検証すべき仮説を探索する。その上で、それらの事実・仮説を解明・検証するためのデータ収集(実験・アンケート等の調査方法)や統計分析(主に、回帰分析)といった研究方法について検討する。			
授業の目的 この授業の目的は、地域の課題から経済学的な問いを見つけ出し、それに回答を与えるための研究方法を検討する作業を通じて、地域課題に対する科学的アプローチのイメージをつかむことである。ビジネスや政策においてデータサイエンスに対するニーズが高まっていることから、地域課題に対する科学的アプローチの方法やその可能性と限界を理解することは有益であり、この授業は経済学の例を扱うものである。			
到達目標			
1. 人々の意思決定を扱うための経済学の分析道具を理解する(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 地域課題の中から人々の意思決定に関する問い(解明すべき事実や検証すべき仮説)を導き出す(共通教育スタンダード「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 上記の問いに回答を与えるための研究方法(データ収集・統計分析等)を設定する(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業に5回以上出席している受講生を対象に、次のウェイトで評価する。 授業中の貢献(発言内容・頻度、グループ・ワークでの作業等)20%、宿題40%(宿題1:10%、宿題2:15%、宿題3:15%)、小テスト10%(2回、各5%)、レポート30%。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. イントロダクション 2. 地域課題の検討 3. 方法論:意思決定と資源配分 4. 方法論:意思決定と選好の測定 5. 地域課題の再考:検証すべき事実・仮説の設定 6. 方法論:因果推論 7. 方法論:回帰分析 8. 調査方法の検討 授業の進捗状況に応じて授業計画を変更することがある。また、「授業の概要」に記載の地域課題のテーマは予定であり、テーマが追加される場合がある(確定版は第1回で連絡)。			
【授業及び学習の方法】 この授業はすべての回で対面実施を予定している(ただし、状況に応じて遠隔授業を行う可能性がある)。方法論の解説は講義形式で行うが、それ以外は受講生と共に議論・検討していく。必要に応じて、グループワークやグループ単位での課題提出を求める場合がある。			
【自学自習のためのアドバイス】 第2回:宿題1を通して授業の準備をしておく。 第3-4回:参考書・資料、講義スライドを使って、授業内容について予習・復習する。また、小テストを使って学習の理解度を確認する。 第5回:第2-4回の内容について復習した上で授業に挑む。授業後は授業内容を復習し、宿題2を通して、地域課題について理論的な考察を行う。 第6-7回:参考書・資料、講義スライドを使って、授業内容について予習・復習する。 第8回:第2-7回(特に、第5-7回)の内容について復習する。加えて、宿題3を通して授業の準備をしておく。授業後は授業内容を復習し、レポート課題を通して、調査方法を含めた研究方法全体について検討する。			

教科書・参考書等

教科書はない。参考書として以下を挙げておく。

1. P. クルーグマン・R. ウェルズ (2017) 『クルーグマン ミクロ経済学 (第2版)』東洋経済新報社
2. N.G. マンキュー (2019) 『マンキュー経済学I ミクロ編 (第4版)』東洋経済新報社
3. 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司 (2015) 『統計学 改訂版』有斐閣
4. 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社
5. 中室牧子・津川友介 (2017) 『「原因と結果」の経済学 - データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社

1. と2. は経済学の「ミクロ経済学」と呼ばれる分野のテキスト, 3. は統計分析のテキスト, 4. と5. は因果推論について的一般書である。

オフィスアワー 木曜の14:30から16:00まで (ただし, 祝日を除く)。場所は幸町南4号館3階長町研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業では経済学と統計学の分析道具を用いますが, 必要な場合を除いてテクニカルな内容を排し, 分析のアイデアを直感的に理解・応用できるように努めます。そのため, 経済学と統計学を学んだ経験がなくても受講上は問題ありません。ただし, 記号やグラフ (と少しの数式) を用いる点にはご注意ください。なお, この授業は社会的な課題に対して経済学と統計学を組み合わせた科学的アプローチで接近する一例を紹介するものであり, 経済学と統計学のトピックを網羅的に扱うわけではない点にもご注意ください。この授業が受講者の経済学や統計学, 地域課題への科学的アプローチに対する興味を引き出し, より進んだ学習の動機付けになれば幸いです。

ナンバリングコード B2THC-ecdG-1N-Lx2 授業科目名 (時間割コード:000801)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 後期木5	対象年次 1～
主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える) Disasters Competency Education	授業形態 講義	単位数 2	
担当教員名 磯打 千雅子, 野々村 敦子, 井面 仁志, 中島 美登子, 黒田 泰弘	関連授業科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習 履修推奨科目 防災リテラシー養成講座(災害を知る)		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義と1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験(受験料3000円が別途必要)に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる(申請料5000円が別途必要)。			
授業の目的 日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためには先ず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。			
到達目標			
1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。 3. 本講義と第1学期の防災リテラシー養成講座(災害を知る)を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎週のレポート(約40%)と期末試験(約60%)を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、毎回講義内容の理解度を確認するための宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス 被害想定とハザードマップ 第2週 防災訓練ー災害イメージ訓練ー 第3週 避難と避難行動 第4週 事業継続計画と地域継続計画 第5週 耐震診断と耐震補強 第6週 身近でできる防災対策 第7週 災害復旧と支援制度ー高松市の防災対策ー 第8週 避難所の運営と仮設住宅の暮らし 第9週 緊急救助技術を身につける 第10週 災害医療 第11週 地域の防災活動 第12週 災害とボランティア活動 第13週 惨事ストレスと心のケア 第14週 災害と損害保険 第15週 災害と危機管理, 修了式			
なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。			

【講義方法】

本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。

なお、防災士試験の受験希望者は資格要件を満たすため対面で講義を受講すること。

教科書・参考書等

教科書：日本防災士機構編集発行「令和3年度防災士教本」（頒布価格：3500円）

（受講者は必ず購入すること）

テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。

オフィスアワー 担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日11：00－12：30）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。受講希望者多数の場合は、ネクストプログラムの防災士養成プログラムを履修する意志があり、1学期の防災リテラシー養成講座（災害を知る）も受講し、防災士認定試験の受験を希望する者を優先する。

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政、企業の担当者によるオムニバス形式の講義。

ナンバリングコード B2THC-ecbG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:000802) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域貢献人財育成 実践講座 I Human Resource Development for Contributions to Local Communities (Practical Course I)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 後期火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 主題C「地域理解」-実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座II		
	履修推奨科目 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～、キャリアデザインと職業適性		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業は、将来、実社会で活躍したいという志を抱いている学生を主な対象に、その学生が「タフで課題解決能力のある人財」に育つことを支援する教育訓練を行う。授業内容としては、グローカリゼーション(地球規模で考えながら、自分の地域で活動する)的発想力や行動力の涵養をはかることに重点を置き、講義と演習(主にグループワークとプレゼンテーション)を行う。			
授業の目的 学生が「タフで課題解決能力のある人財」になるためには、①自己理解・他者理解、②視野・見識、③主体的能動的意識(同前)、④課題の発見、⑤他者と協働した課題解決力、⑥グローバル化社会に対応した自己表現力、をそれぞれ高めることが重要である。本授業では、特に②③⑥の強化を目的としている。(実践講座IIのシラバスも参照のこと)			
到達目標			
①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) ②グローカリゼーションの発想をするために、地域および自分の特徴・特性を説明できる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) ③論理的な仮説を立てることができ、想いを具体的な行動へと移せる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ④志に基づいた夢と自己効力感を、わかりやすくプレゼンテーションできる。			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み態度及び各回提出のポートフォリオ(20%)、発表成果(50%)、期末レポートの内容(30%)をもとに判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。遠隔授業の場合もあります。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・アイスブレイク 第2回 地域理解1 グローカリゼーションについて 第3回 地域理解2 地域の役割[地域で活躍するために] 第4回 キャリア形成1 自分の社会人基礎力 第5回 キャリア形成2 キャリアの転機 第6回 キャリア形成3 キャリア形成と目標 第7回 グループワーク(大学生活の目標) 第8回 地方の課題解決に向けて 第9回 グループワーク 世界から考える 第10回 グループワーク 地方の視点から 第11回 グループワーク 課題解決に向けて 第12回 グループワーク 発表準備 第13回 成果発表 第14回 成果発表 第15回 まとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 ①自分が興味・関心を抱いた事象については、ネットや書籍等でさらに調べ、現状やこれまでの歴史等を確認し理解を深める。 ②新聞やテレビニュースからの情報収集を習慣化して、時事問題への造詣を深める。 ③アルバイト、習い事、スポーツ等で社会人と交流できる「場」に積極的な参加をして、世代間コミュニケーションのスキル向上や、人的ネットワーク拡大の機会を得る。			

④ 自分と関わりがある地域について、自分の言葉で地域の特徴を説明できる程度に情報を収集して理解を深める。

教科書・参考書等

必要に応じてレジュメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター (大学会館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・演習実施のため定員を上限40名とし、必要に応じて受講者人数調整を行う。(第1講は必ず出席すること)
- ・グループワーク中心の講義では途中からの参加を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように十分留意すること。また、欠席をするとグループでの課題を継続できなくなる場合があるので、特段の事情がない限り欠席をしないこと。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecbG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:000803) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ Human Resource Development for Contributions to Local Communities (Practical Course Ⅱ)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 主題C「地域理解」-実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ		
	履修推奨科目 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～、キャリアデザインと職業適性		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習20時間+事後学習40時間)			
授業の概要 本授業は、将来、実社会で活躍したいという志を抱いている学生を主な対象に、その学生が「タフで課題解決能力のある人財」に育つことを支援する教育訓練を行う。授業内容としては、他者協働を効果的に行なうための知識やスキルの涵養をはかることに重点を置き、通常の90分授業単体では実施できない演習(主にグループワーク&ディスカッション)を行う。			
授業の目的 学生が「タフで課題解決能力のある人財」になるためには、①自己理解・他者理解、②視野・見識、③主体的能動的意識(同前)、④課題の発見、⑤他者と協働した課題解決力、⑥グローバル化社会に対応した自己表現力、をそれぞれ高めることが重要である。本授業では、特に①③④⑤の強化を目的としている。(実践講座Ⅰのシラバスも参照のこと)			
到達目標			
①地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) ②自分の認知スタイルのクセや傾向を説明できる。 ③未知の問題に対して自己の意見を確立できるとともに、他者の意見も取り入れて活用・応用・発展させることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ④ケーススタディではグループ内の様々な知識や視点を集約して、問題解決にあたることができる。(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み態度及びポートフォリオ(20%)、発表成果(40%)、提出レポートの内容(40%)をもとに判断する。[開講時期の都合により、成績評価は通常の前期科目よりも遅くなる]			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
1. 授業計画 <1日目> 第1回 オリエンテーション・地域に関する関心と理解力 第2回～第4回 講義・演習 適性検査による自己理解 <2日目> 第5回～第8回 講義・グループワークAと肯定的フィードバック <3日目> 第9回～第12回 講義・グループワークBとコア・コンピタンス <4日目> 第13回～第14回 コンセンサスを形成するグループディスカッションと発表 第15回 まとめ、提出レポートの作成及び提出 1～3日目: 1～4校時 4日目: 1～3校時			
2. 実施期間・実施場所・履修方法については、5月中旬頃の掲示を確認すること			
3. 自学自習に関するアドバイス ① 新聞やテレビニュースからの情報収集を習慣化して、時事問題への造詣を深める。 ② アルバイト、習い事、スポーツ等で社会人と交流できる「場」に積極的な参加をして、世代間コミュニケーションのスキル向上や、人的ネットワーク拡大の機会を得る。 ③ 自分と関わりがある事象や学問について、自分の言葉でその内容や特徴を説明できる程度に理解を深める。 ④ 自分が興味・関心を抱いた事象については、ネットや書籍等でさらに調べ、現状やこれまでの歴史等を確			

認し理解を深める。

4. 注意事項 履修登録後は香川大学教務システム“Dream Campus”からの連絡メッセージを必ず確認できる状態にしておくこと。

教科書・参考書等

必要に応じてレジユメと参考資料を適宜配布

オフィスアワー [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター (大学会館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ① 集中講座期間中のスケジュールはもちろん、連続講義となるので体調管理にも十分注意すること。グループワーク中心の講義では途中からの参加(出席)を認めないので、ケアレスミスでの遅刻がないようタイムマネジメントに十分留意すること。
- ② 集中講義期間中に台風等の悪天候で休講となった場合には、講義の日時が変更となる場合がある。翌週の月曜日が振替日となる可能性もあるので、可能な限り予定をあけておくこと。
- ③ 履修登録後は香川大学教務システム“Dream Campus”からの連絡メッセージを必ず確認できる状態にしておくこと。何らかの事情で別手段での連絡を希望する場合には、事前に担当教員に申し出ておくこと。

教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000804) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 瀬戸内地域活性化プロジェクトイ Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期月5	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局 : 大教センター DPコード : eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 神田 亮, 長尾 敦史, 大村 隆史	関連授業科目 地域インターンシップ、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につくことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 <授業> 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 第1回: ガイダンス(1回) 第2,3回: 参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修 第4~13回: 実習 第14,15回: 活動報告会のための学修 第16回: 活動報告会(報告会は、例年1月末) 授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。 <プロジェクト>【定員計100人】 ・高松の街活性化プロジェクト【定員15人】 高松市の商店街活性化に向けて、情報発信や地域コミュニティの場づくりなどを行いながら考えていきます。 ・丸亀市定住促進プロジェクト【定員15人】 シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。 ・観音寺市活性化プロジェクト【定員15人】 子育て支援施設や文化施設など地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。 ・東かがわ市定住促進プロジェクト【定員30人】 東かがわ市の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実			

践します。

- ・さぬき市活性化プロジェクト【定員15人】
さぬき市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組みづくりを行っていきます。
- ・善通寺市活性化プロジェクト【定員10人】
善通寺市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協働できる仕組みづくりを行っていきます。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

<注意事項>

- ・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）

プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは、自治体職員の方々と協働しながら進める。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000805)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 後期月5	対象年次 1～
主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
瀬戸内地域活性化プロジェクト Project on Regional Vitalization in Setouchi Area	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 神田 亮, 長尾 敦史, 大村 隆史	関連授業科目 地域インターンシップ、地域をデザインする		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 地域社会について理解を深め、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につけ、自信を持って次年度の課程に進むことができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につくことができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。本授業は前期のみの開講であるが、年間を通して活動する。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。			
この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<授業> 本授業の進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 第1回:ガイダンス(1回) 第2,3回:参加プロジェクト選択、プロジェクト対象地域についての学修 第4~13回:実習 第14,15回:活動報告会のための学修 第16回:活動報告会(報告会は、例年1月末)			
授業やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。			
<プロジェクト>【定員:若干名】			
<ul style="list-style-type: none"> ・丸亀市定住促進プロジェクト シャッター商店街における活性化や地域コミュニティ形成の取組を行いながら、定住策について考えます。 ・観音寺市活性化プロジェクト 子育て支援施設や文化施設など地域コミュニティ形成の場として活用する試みを通じて、過疎化が進む地域社会のあり方を考えます。 ・東かがわ市定住促進プロジェクト 東かがわ市の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流などの定住促進策を実践します。 ・さぬき市活性化プロジェクト さぬき市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協業できる仕組みづくりを行っていきます。 			

- ・善通寺市活性化プロジェクト
善通寺市の地域課題を検討しながら、地域住民とともに協働できる仕組みづくりを行っていきます。

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。

<注意事項>

- ・初回で各プロジェクトの説明を行う。その後、希望するプロジェクトを一つ選択する。但し、各プロジェクトは受入に際し人数の上限があるため、話し合いで人数調整を行う。希望するプロジェクトから漏れた場合は、別のプロジェクトを選択する。
- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、各プロジェクトごとに担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

担当になった地区について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

プロジェクトを進めるための予備調査資料について準備する。（5時間）

プロジェクトに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

プロジェクトでは自治体職員の方々と協働で進める。

<p>ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000806) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域インターンシップイ Internship in the region</p>	<p>科目区分 主題科目</p> <p>水準 学士:基礎科目 分野 主題C</p> <p>授業形態 講義 フィールドワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期木1</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: eca</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1～</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム</p>
<p>担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史</p>	<p>関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。</p>			
<p>授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。</p>			
<p>成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」(レポート)を提出する。 インターンシップへの参加とその態度:70%、事前指導・報告会・レポート:30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>本科目は授業及びフィールドワーク(5回)と講義10回分に相当する実習(=インターンシップ)から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業～うまげなかがわ感じてみまい!うどん県住みます学生プロジェクト～」と連携して行う。</p>			
<p>この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p>			
<p>【授業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回:ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導(本学における講義やオンデマンド型による講義) ・第3回:地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回:インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回:実習 ・第15回:事後指導/報告会のための学修 ・第16回:活動報告会</p>			
<p>【インターンシップについて】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり(今後の展望について自治体・住民等とも話し合い) ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します(詳細は受け入れ先と学生で調整)。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する(方法については追って指示)。</p>			
<p>【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」(レポート)を提出し、活動内容を報告会で発表する。</p>			

【活動場所・受け入れ先】

今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。
本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。
また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

<実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による>
県内各企業、自治体など

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階

その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000807)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 後期木1	対象年次 1～
主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
地域インターンシップ Ⅰ Internship in the region	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的			
授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」(レポート)を提出する。 インターンシップへの参加とその態度:70%、事前指導・報告会・レポート:30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク(5回)と講義10回分に相当する実習(=インターンシップ)から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業～うまげなかがわ感じてみまい!うどん県住みます学生プロジェクト～」と連携して行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業】			
インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回:ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回・事前指導(本学における講義やオンデマンド型による講義) ・第3回:地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回:インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回:実習 ・第15回:事後指導/報告会のための学修 ・第16回:活動報告会			
【インターンシップについて】			
地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり(今後の展望について自治体・住民等とも話し合い) ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します(詳細は受け入れ先と学生で調整)。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する(方法については追って指示)。			
【インターンシップ実施後】			
「地域活動報告書」(レポート)を提出し、活動内容を報告会で発表する。			
【活動場所・受け入れ先】			
今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定(事情により変更の可能性あり)。			

本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。
また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

<実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による>
県内各企業、自治体など

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階

その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecdG-1N-Ep2 授業科目名 (時間割コード:000808)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期火2	対象年次 1～
主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
地域活動 Activity in the region	授業形態 演習 PBL	単位数 2	
担当教員名 平 篤志, 青山 夕夏	関連授業科目 「四国の歴史と文化」「四国の地域振興」		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×2回+実習(45時間以上)+発表会+自学自習(準備学習 10時間+事後学習 5時間)			
授業の概要			
地域活動に参加し、生涯学習社会と持続可能社会の構築のあり方を実践的に学ぶ。			
授業の目的			
地域活動に参加し、地域社会に貢献することを通して、生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる学習を実践的に行うことを目的とする。			
到達目標			
1. 地域活動に参加し、地域に関する関心と理解力を高め、実際に地域社会に貢献ができる(共通教育スタンダードの「地域理解(地域に関する関心と理解力)」「倫理観・社会的責任(市民としての責任と倫理観)」に対応)。 2. 地域活動の体験を元に、生涯学習社会と持続可能社会の構築に関わる実践的な学習の意義を説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
授業開始時の講義を受講し、その後指定する期間中に延べ45時間以上の活動に参加する。また、指定の期日までに「地域活動の記録」(活動日誌)および中間・最終レポートを提出し、活動内容を発表会で報告する。成績配分の目安:授業への取り組み(地域活動,日誌作成,発表会を含む)60%,中間レポート10%,最終レポート30%。なお、2月頃で活動が続くため、成績は後期授業のそれと同時期に発表する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活動期間中は、活動日誌に活動内容を記録し、活動途中と活動終了後にレポートを作成し、活動報告(発表会)を行う。 この科目は基本的に対面授業を行い、一部の授業回では遠隔授業を行う。			
第1回:ガイダンス,授業の概要説明と個別プロジェクトの紹介 第2回:ボランティアについて考える(講義),参加プロジェクト選択(遠隔・対面併用) 第3回:ボランティアについて考える(講義),参加プロジェクト決定(遠隔・対面併用) 第4回~第14回:各プロジェクトでの地域活動実施 第15回:合同発表会 10月中:活動の進行状況に関する中間レポート提出 2月:最終レポート提出,活動内容に関する合同発表会			
講義担当:平 篤志			
プロジェクト(予定)一覧(担当者:プロジェクト名) ・平 篤志:JR屋島駅を核とした屋島活性化プロジェクト ・青山夕夏:地域の音楽活動プロジェクト			
事前・事後学習について 事前・事後学習として、期間中、授業中紹介のあった、あるいは自身で探した地域活動に関する内外の文献を読み、地域活動の意義について考える。また、地域でどのような行事や活動が行われているか、新聞やテレビ等の報道に随時注意を払うようにする。(15時間)			
成績評価について(目安) 授業への取り組み(地域での実践活動,日誌作成,発表会を含む)60%,中間レポート10%,期末レポート(最終発表)30%			
教科書・参考書等			
最初の授業時に紹介する。			
オフィスアワー 水曜日12:00-13:00(平研究室:教育3号館4階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
学外で活動を行うので、社会の基本ルールを十分に守ること。受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。また、科目の性格上、受講希望者数が各教員プロジェクトの受け入れ人数の合計を上回った場合は、抽選を行う。			

ナンバリングコード B2THC-ecdG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000809) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域での防犯を考える Crime Prevention Project	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期火2	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:ecd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 大久保 智生, 西本 佳代	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 7回 + フィールドワークおよびそのまとめ90分 × 8回 + 自学自習			
授業の概要			
大学生が巻き込まれる犯罪や香川県で多い犯罪の防犯活動への参加を通して、効果的な防犯対策を考え、提案し、地域での防犯を実践的に学ぶ。具体的には、地域での危険個所を点検するためのフィールドワークを行い、防犯マップを作成する。大学生が最も巻き込まれる自転車盗に関する駐輪場でのフィールドワークを行い、自転車盗の効果的な対策を考え、提案する。また、高齢者に関わる犯罪の効果的な対策を考え、提案する。			
授業の目的			
地域の防犯活動に参加した上で、実施可能な防犯対策を提案し、効果的な地域での防犯活動を理解することを目的とする。さらに、授業終了時には、地域での防犯活動に関心(共通教育スタンダードにおける「地域に関する関心と理解力」に対応)を持ち、安全・安心な地域づくりを担う人材を養成することを目的とする。			
到達目標			
地域の防犯活動に参加することにより、その価値や意義について説明できる 地域の防犯活動に参加することにより、その課題について、説明できる 地域の防犯活動に参加することにより、効果的な防犯対策を提案することができる			
成績評価の方法と基準			
講義及びフィールドワークへの参加、レポートにより総合的に評価			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(1) ガイダンス (2) 香川県の犯罪情勢に関するゲスト講師講義:警察による講義 (3) 駐輪場でのフィールドワーク (4) フィールドワークのまとめと自転車の窃盗対策の提案および専門機関からのコメント (5) 地域での防犯対策に関するゲスト講師講義:防犯協会連合会、弁護士による講義 (6) 防犯マップ作成に関するゲスト講師講義:防犯マップ作成を専門とした犯罪心理学者による講義 (7) 防犯マップ作成のための地域でのフィールドワーク (8) フィールドワークのまとめと防犯マップの提案および専門機関からのコメント (9) 店舗での犯罪対策に関する講義:万引き防止専門家による講義 (10) 認知症サポーター養成講座:高松市社会福祉協議会 (11) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (12) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (13) 店舗でのフィールドワークおよび買い物支援活動 (14) フィールドワークのまとめと高齢者の防犯対策の提案および専門機関からのコメント (15) 再犯防止に関するゲスト講師講義:法務教官による講義 授業におけるフィールドワークの位置づけとしては、様々な活動を行っている専門家による講義を聴講した上で、フィールドワークを行うこととします。したがって、外部講師の講義を無断欠席した際には、フィールドワークの場に行けないことがあります。なお、フィールドワーク中の事故に備えるため、受講者は災害保険に必ず加入していただきます。			
教科書・参考書等			
特になし。資料は適宜配布する。			
オフィスアワー 火曜日13:00～16:10 質問等はメールにて事前連絡のうえ研究室にて受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
講義を無断欠席すると、フィールドワークの場に行けないことがあるので、欠席の際は連絡をすること。フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等の保険に加入しておくこと。			

<p>ナンバリングコード B2THC-ebcG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード:000810) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 里海から地域の暮らしを考える Think about our Way of Life through Learning "Satoumi"</p>	<p>科目区分 主題科目</p> <p>水準 学士:基礎科目 分野 主題C</p> <p>授業形態 演習 フィールドワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期木1</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: ebc</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1～</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネット・プログラム</p>
<p>担当教員名 大村 隆史</p>	<p>関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし</p>		
<p>学習時間 講義90分×4回 + 演習90分×3回 + フィールドワーク(3～4時間)×5回 + 自学自習(事前学習20時間+事後学習20時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、香川県環境森林部環境管理課と連携して実施するもので、フィールドワークを主軸とした授業です。具体的には、「かがわ里海大学」という市民講座への参加を通じて、里海づくりに必要なスキルや知識を高めたり、里海への理解を深める機会を複数回設けています。その他に、「海辺のおでかけマップ」という資料を参考にしながら、高松市内を中心とした身近な海辺の散策マップ作りを並行して行うことを計画しています。近年の地球環境の保全をめぐる動向として、グローバルな問題をローカルな行動によって少しずつ解決していくとする態度の形成は重要です。本授業は、「里海」について知識がない学生も受講できるよう、授業の初回～3回あたりまでに事前の学習機会を設けるなどの機会を設けます。香川県において里海を学び、フィールドで実際に体験し、それらを題材に未来への責任ある議論を行い、行動し、評価するという一連のプロセスを経験する機会を創出します。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>講義で基本的な知識を習得したうえで、フィールドワークで具体的な環境問題を把握し、座学と現象との結びつきについて認識することを目的とする。また、ワークショップや演習を通じて課題解決に向けた具体的な方策を提案し、予測される成果と課題をまとめる力を身に付けることを目的とする。さらに、授業終了時には、環境問題と地域の幅広い地域課題とのつながりを関連づけて考察できるようになることを目的とする。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>里海に関する環境保全の取り組みの価値や意義について簡潔に説明することができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 グローバルな環境問題の解決に向けたローカルな対応策について、3つ以上提案できる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 環境問題と身近な地域の課題とを関連づけて、他者と議論することができる(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応)。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>授業及びフィールドワークへの参加(60%)、学習成果物の提出(20%)、レポートの提出(20%)について評価する。 なお、本授業は前期科目として開講しているが、後期の年明け頃まで活動を行うため、成績発表は年度末頃となる。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】(前期は木曜1限を基準に実施)</p> <p>第1回 【遠隔】ガイダンス・本授業の目的 (4月8日) 第2回 【遠隔】「里海」の現状と課題を整理する (4月15日) 第3回 【遠隔】「海辺のおでかけマップ」の作成準備 (4月22日) 第4～6回【FW】以下のものから3つ以上に参加すること。基本的には各回5名定員とする。 ☆5月8日(土) 13:30～16:30「ボードゲームから里海を考える講座」@香大幸町キャンパス ☆5月15日(土) 8:30～11:30「里海DEトレイルラン講座」@女木島 ☆5月29日(土) 13:00～16:00「森と海をつなぐ体験講座」@ドングリランド ★6月12,13日 9:00～17:00「里海ガイド養成講座(入門)」@坂出市王越町ほか ★7月3日(土) 18:00～20:00「ウミホテル観察会を開くための講座」@大の場海岸、ヨット競技場 ☆7月10日(土) 16:00～18:00「海の生き物観察講座～磯の生き物編～」@津田公民館北山分館及び周辺海岸 ☆7月17日(土) 10:00～12:00「一から学ぶ海ごみ講座」@交流の里おうごし ☆7月18日(日) 18:30～20:30「ウミホテル観察講座」@観音寺港、観音寺西公民館 ☆7月31日(土) 18:30～20:30「ウミホテル観察講座」@志度働く婦人の家、その周辺 ★9月4日(土) 9:30～17:30「フィールドガイドのためのファシリテーション講座」@東かがわ市山田海岸 ☆9月5日(日) 14:00～16:00「『瀬戸内海国立公園』を知る講座」@香大幸町キャンパス ☆9月12日(日) 14:00～16:00「かがわの里海 この人に聞きたい!」@香大幸町キャンパス</p>			

☆10月9日(土) 13:00~16:00「川と海のつながり体験講座」@香大創造工学部キャンパス、御坊川

第7回 【対面】これまでの学習のまとめと振り返り (7月22日)

(後期は日程を受講者/チームで予定を合わせて行う)

第8~10回 【対面】「海辺のおでかけマップ」のチーム分けとワークショップ、フィールドワーク

第11回 【対面】「海辺のおでかけマップ」の草案の共有とブラッシュアップ

第12回 【対面】「海辺のおでかけマップ」のお披露目会

第13回 【対面】これまでのフィールドワークのまとめと振り返りレポートの作成

第14回 【対面】一定の学習成果を整理し、香川県環境管理課等の関係者と共有する

※FWはフィールドワーク(現地実習)を指す。☆は無料講座、★は有料講座を指す。

※延期や定員の関係でFWに十分に参加できなかった場合は、第10回以降にFWへの参加が盛り込まれることがある。

※この科目は基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。

【授業及び学習の方法】

Moodleに本授業のコースを作成するので、2021年4月5日(月) 8:50以降にMoodleでのコース登録を済ませ、コース内の指示に従って学習を進めてください。授業は第1~3回に「里海」と関わるいくつかの視点を提示し、フィールドワークへの参加に向けて事前学習を行います。第4~8回に「かがわ里海大学」の市民講座へ参加します。第9回に振り返りとまとめを行い前期分の活動を修了します。第10回以降は後期に実施します。なお、毎授業の最後にはミニレポートをMoodle上で記入することとします。

【自学自習のためのアドバイス】

本授業は、その大半が香川県内の「里海」をテーマとした学習活動によって構成されます。

したがって、香川県内の地理に関する基礎的な知識が備わっていることで、その内容をより深く理解することができます。こうした学びの実現に向けて、香川県内の基礎的な地理情報や特徴などについて、地図帳や『香川県史』といった類の文献を通じて予習・復習を行うことが望ましいです。また、WSやFWへの参加をした際には、参加をした際に学んだことや感じたことをしっかりと記録しておくことが必要です。発表会や報告の機会に、体験した活動の内容を復習できるようにすることが望ましいです。

教科書・参考書等

特になし、資料は適宜配布する。

オフィスアワー 基本的には木曜日10:30から13:00までとする。

質問等はメールにて事前連絡のうえ大村研究室(研究交流棟6階)にて随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

●本授業の一部は、本学の時間割と必ずしも連動しておらず、学外での活動も多いため、受講の際にはあらかじめ日時をしっかりと確認しておく必要がある。また、テスト期間中に開講される授業以外は必ず参加することを受講の条件とする。

●本授業のフィールドワークにかかる交通費はすべて自己負担となる。★の講座への参加費も自己負担となる。

各講座の参加にかかる費用については、HP「かがわ里海大学」の「令和3年度「かがわ里海大学」前期講座」を参照すること。これらの点について同意したうえでの履修登録を推奨する。

●公共交通機関でのアクセスが困難な会場での講座に関しては、担当教員による引率がある。その他の講座への参加については、各自で移動して受講をすることになる。

●科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行う。

●受講には、学研災および学研賠への加入が求められる。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Ef1 授業科目名 (時間割コード:000811) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域をデザインする Design the region	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 1	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×4回程度+実習(22.5時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 自治体と連携し、地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践(地域をデザインする)するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業～うまげながわ感じてみまい!うどん県住みます学生プロジェクト～」と連携して行います。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業計画】 <講義> 第1回:ガイダンスおよび対象地域の活動内容の紹介 第2回,3回:対象地域についての学修 ・デザイン思考・フィールドワークの視点について プロジェクトを進めていくうえで必要なデザイン思考・フィールドワークの視点について学ぶ。 ・自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ・対象地域で活動および移住・起業している方からの講話 対象地域で活動および移住・起業している方を招き、きっかけや対象地域の魅力について学ぶ。 ・対象地域を研究対象としている方の講話 対象地域を研究対象としている方を招き、対象地域における課題や資源について学ぶ。 第7回:活動報告会のための学修 活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。 <プロジェクト(実習)> 第4回～第6回 現地の地域資源(食、自然、文化など)を活用してビジネス展開や観光交流、防災などの地域をデザインするための準備に取り組む。 ・フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りやアイデア出しおよびディスカッションを行う。 ・フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。(自学自習)

<活動報告会>

第8回：活動報告会

自治体職員・関係者を招いて活動報告会を行う。

<注意事項>

- ・フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多くあるため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。
- ・参加費用(2万円程度)が別途必要となる。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

地域の概要について授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う(10時間)

フィールドワークに関する予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。(5時間)

フィールドワークで得た知見の整理や実施中に振り返りを行う(30時間)

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。(15時間)

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日4時限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

東京圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外での実習では、実務経験を有する外部講師による実習を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード:000812) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) コミュニティデザイン入門 Introduction to Community Design	科目区分 主題科目 水準 学士:基礎科目 分野 主題C 授業形態 演習 フィールドワーク	時間割 2021年度 前期木5 提供部局:大教センター DPコード:eca 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト 地域インターンシップ 履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×5回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 コミュニティデザインの手法に関する基礎的な技法を学ぶ。学んだ技法を地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】			
<講義> ①ガイダンスおよびコミュニティデザインに関する事例紹介(1回) ②③コミュニティデザインに関する学修(2回) ②ワークショップ技法についてその1(ブレインストーミング、親和図法、シナリオグラフなど) ③ワークショップ技法についてその2(ワールドカフェ、マトリクス法など) ④⑤フィールドワークの仕方(2回) ④フィールドワークのために必要な基礎知識や道具について ⑤フィールドワークにおける技法について(参与観察、インタビュー)			
<プロジェクト(実習)> ⑥~⑮ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会に参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ⑥⑦ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた情報収集・調査設計を行う。 ⑧⑨ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画づくりを行う。 ⑩⑪⑫⑬⑭⑮ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。 ※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。			

実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

夏期休暇期間中も活動を行う。

<活動報告会>

⑩活動報告会（2022年1月を予定しています）

活動報告会を行う。

<注意事項>

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多いため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

NPO法人理事として地域活性化を担当。また自治体で総合戦略づくりなどに携わった経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Ef2 授業科目名 (時間割コード:000813)	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 後期木5	対象年次 1～
主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based)	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
コミュニティデザイン実習 Field Practice on Community Design	授業形態 演習 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域インターンシップ、コミュニティデザイン入門		
	履修推奨科目		
学習時間 講義とグループワーク90分×4回程度+実習(45時間以上)+活動報告会+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 コミュニティデザインの手法を用いて、自治体と連携し、地域の多様なステークホルダーとともに地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 香川県を中心とする地域社会について理解を深め、地域に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになる。 さらに、地域に愛着を持つとともに、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、今後の課程・社会において必要となる汎用性を身につける。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画することにより、地域社会に対する関心を高め、地域社会をより深く理解することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 仲間と協力し、また地域、自治体等異なる立場の方々々と連携してプロジェクトを進めることを通じて、コミュニケーション力を高めることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自ら地域の課題を発見・探求し、その解決に向けて取り組む、主体的・積極的な姿勢が身につく(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
地域活性化に寄与する地域課題解決に向けたプロジェクト型の授業を行う。「地域の現状把握と課題整理」→「課題解決に向けた計画」→「実践」→「振り返り」といった一連のプロセスに沿って実施する。 授業は、講義と実習に分かれて行う。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 <講義> ①ガイダンスおよびプロジェクト対象地域の活動内容の紹介(1回) ②③プロジェクト対象地域についての学修(2回) ②ワークショップ技法について プロジェクトを進めていくうえで必要なワークショップ技法について学ぶ。 ③自治体職員による地域づくりに関する講話 自治体職員をお招きして自治体が策定している総合戦略や人口ビジョンについて学ぶ。 ⑤活動報告会のための学修(1回) 主に活動の振り返りを行いながら、活動報告会にむけてのプレゼンテーションづくりを行う。			
<プロジェクト(実習)> ④～⑬ コミュニティデザインの実践 住民主体のまちづくりやその実行について、地域のコミュニティ協議会に参加しながら、コミュニティ事業についての企画・実践を行う。 ④⑤⑥ フィールドワークを行いながら、課題発見、課題解決にむけた計画作りを行う。 ⑦⑧ 情報発信の仕方について実践活動を行う。具体的には、フィールド実習で得た地域情報をどのように情報を加工して情報発信していくかを目的にミニ情報誌づくりやラジオ番組づくりについて学ぶ。 ⑨⑩⑪⑫⑬ フィールドワークを行いながら、実践活動を行う。			

※フィールドや実施内容については、連携自治体や地域の状況により変更となる場合がある。
実習やプロジェクト活動は、主に他の授業のない時間帯や夕方、土日等を活用して実施する。受講生は授業時間以外にもグループで集まり、課題解決策について協議すること、プロジェクト活動の準備をすることなどが求められる。

<活動報告会>

⑩活動報告会（2022年2月を予定しています）
活動報告会を行う。

<注意事項>

フィールド調査や地域住民との話し合い、活動準備、プロジェクト活動等、フィールドにおける取組が多いため、実施日や時間については、担当教員と受講生との間で調整して進めていく。

<自学自習について>

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。

<自学自習のためのアドバイス>

自分の住むコミュニティについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」について考察し情報収集を行う（10時間）

フィールドワーク先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

フィールドワーク先で学んだ知見の整理や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 木曜日2限 幸町北キャンパス研究交流棟6階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実際に学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

教員の実務経験との関連

NPO法人理事として地域活性化を担当。自治体で総合戦略づくりなどに携わった経験に基づいて講義を行います。

<p>ナンバリングコード B2THC-ecxG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000814) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 瀬戸内国際芸術祭とマイノリティ問題 Setouchi Triennale and the Problems of Minorities</p>	<p>科目区分 主題科目</p>	<p>時間割 2021年度 前期金1</p>	<p>対象年次 1～</p>
	<p>水準 学士:基礎科目 分野 主題C</p>	<p>提供部局: 大教センター DPコード: ecx</p>	<p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム</p>
	<p>授業形態 講義 フィールドワーク</p>	<p>単位数 2</p>	
<p>担当教員名 小坂 有資</p>	<p>関連授業科目 差別とマイノリティ、マイノリティのライフヒストリー、社会デザインとマイノリティ問題</p>		
<p>履修推奨科目</p>			
<p>学習時間 講義とグループワーク 90分×15回、フィールドワーク 30時間以上、自学自習(準備学習20時間+事後学習20時間)</p>			
<p>授業の概要 瀬戸内国際芸術祭の舞台になっている島のうち、マイノリティ問題と関連する島の過去と現在について調べます。つぎに、それらの島で瀬戸内国際芸術祭の作品や活動がどのように展開されているかをフィールドワークします。そのうえで、アートを紹介したマイノリティ問題の解決に向けた方法とその意義を考察します。</p>			
<p>授業の目的 現代社会では、ヒト・モノ・カネ・情報等が国境を越えてグローバルに移動しています。しかし、排除や差別を伴った社会的分断も引き起こされています。そこでこの授業では、排除や差別の問題だけでなく、多様な人と人あるいは場所との共生のあり方を考察するための事例として、ハンセン病、出産、産業廃棄物等に関する問題について学びます。このようなマイノリティ問題を理解したうえで、それらの具体的な課題を発見し解決していくための、アートを紹介した方法とその意義を示すことができるようになることが、この授業の目的です。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>1. 瀬戸内国際芸術祭の舞台の中で、マイノリティ問題と関連する島の過去と現在について説明することができる(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」と「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. マイノリティ問題を解決していくための、アートを紹介した方法とその意義を説明することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>フィールドワーク場所に関する文献等での調査とフィールドノート 80%(到達目標1に対応)、発表10%(到達目標1と2に対応)、レポート 10%(到達目標1と2に対応)</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 地域社会とアートについて 第3回 フィールドワークについて 第4回 女木島の過去と現在を知る 第5回 フィールドワーク(女木島)のふりかえり 第6回 伊吹島の過去と現在を知る 第7回 フィールドワーク(伊吹島)のふりかえり 第8回 豊島の過去と現在を知る 第9回 フィールドワーク(豊島)の振り返り 第10回 大島の過去と現在を知る 第11回 フィールドワーク(大島)の振り返り 第12回 アートを介したマイノリティ問題の理解について 第13回 アートを介したマイノリティ問題の解決について 第14回 発表の準備 第15回 発表</p> <p>【授業の方法】 第1回は講義、第2～14回は講義とグループワーク、第15回は発表です。第4回と第5回の際にフィールドワーク(女木島)、第6回と第7回の際にフィールドワーク(伊吹島)、第8回と第9回の際にフィールドワーク(豊島)、第10回と第11回はフィールドワーク(大島)を実施します。それぞれのフィールドワークに要する時間は1日ずつを予定しており、土曜日あるいは日曜日にフィールドワークを行う予定です。</p> <p>この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 第1回: この授業に関するアンケートに回答してもらいます。 第2回: 瀬戸内国際芸術祭に関する動画を視聴してください。地域社会で開催されている芸術祭のウェブサイト等を閲覧し、授業内容を復習してください。</p>			

第3回：フィールドワークの技法について、復習してください。
第4回：女木島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第5回：女木島に関するフィールドノーツを作成してください。
第6回：伊吹島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第7回：伊吹島に関するフィールドノーツを作成してください。
第8回：豊島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第9回：豊島に関するフィールドノーツを作成してください。
第10回：大島の過去と現在について調べてレポートにまとめてください。
第11回：大島に関するフィールドノーツを作成してください。
第12～第14回：アートを介したマイノリティ問題の理解と解決に関する発表の準備をしてください。
第15回：他のグループの発表や発表に対する意見をもとにして、発表内容を改善しレポートにまとめてください。

瀬戸内国際芸術祭のボランティアサポーター「こえび隊」の活動に参加すれば加点します。

教科書・参考書等

参考書

岡原正幸編（2020）『アート・ライフ・社会学：エンパワーするアートベース・リサーチ』晃洋書房。

西原和久・杉本学編（2021）『マイノリティ問題から考える社会学・入門：差別をこえるために』有斐閣。

他にも授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 時間：水曜日12時～14時

場所：幸町北キャンパス5号館5階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、フィールドワークに参加してください。具体的な対策については、授業でお伝えします。
- ・フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」等の保険に加入してください。
- ・新型コロナウイルス感染症などの影響により、フィールドワークができなくなる島があるかもしれません。その場合は、フィールドワークの内容を変更する可能性があります。
- ・学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。
- ・科目の性格上、受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

ナンバリングコード B2THC-ecaG-1N-Lf2 授業科目名 (時間割コード:000815) 主題C-実践型科目「地域理解」 Regional studies(experience-based) 地域インターンシップハ Internship in the region	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 前期集中	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 主題C	提供部局:大教センター DPコード:eca	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 フィールドワーク	単位数 2	
担当教員名 神田 亮, 長尾 敦史	関連授業科目 瀬戸内地域活性化プロジェクト、地域をデザインする 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×5回+実習(45時間以上)+活動報告会90分+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 受け入れ先のニーズに応じて集中的に訪問し、地域づくりに関わる方々と地域課題解決のための実践をおこなうことで、地域づくりや地域づくりにかかわる仕事を理解する科目です。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち、自信をもって社会において活躍することができる。			
到達目標			
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 学期開始時の講義を必ず受講した上でインターンシップに参加する。インターンシップ終了後に活動内容を報告会で発表し、「地域活動報告書」(レポート)を提出する。 インターンシップへの参加とその態度:70%、事前指導・報告会・レポート:30% 成績評価に際しては、受け入れ先の方の評価も考慮する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
本科目は授業及びフィールドワーク(5回)と講義10回分に相当する実習(=インターンシップ)から構成される。成績評価に必要なフィールドワーク及び実習参加時間数は45時間以上とする。 インターンシップ実施計画や内容については以下参照のこと。 本授業は「地方と東京圏の大学生対流促進事業～うまげなかがわ感じてみまい!うどん県住みます学生プロジェクト～」と連携して行う。 この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業】 インターンシップの進め方などについては初回授業で説明するので必ず出席すること。 ・第1回:ガイダンス・各種届出の手続き ・第2回:事前指導(本学における講義やオンデマンド型による講義)(遠隔) ・第3回:地域理解のためのフィールドワークに関する学修 ・第4回:インターンシップ先に関する学修 ・第5回～14回:実習 ・第15回:事後指導/報告会のための学修 ・第16回:活動報告会			
【インターンシップについて】 地域に滞在もしくは定期訪問し、以下の実践をおこなう。 ・受け入れ先の方との地域課題についての話し合い ・課題解決策の検討 ・課題解決のための実践 ・活動内容のふりかえり(今後の展望について自治体・住民等とも話し合い) ※滞在時期や滞在形態は受け入れ先の要望に応じて決定します(詳細は受け入れ先と学生で調整)。 ※※インターンシップ期間中は活動状況を担当教員に報告する(方法については追って指示)。			
【インターンシップ実施後】 「地域活動報告書」(レポート)を提出し、活動内容を報告会で発表する。			
【活動場所・受け入れ先】			

今年度の受け入れ先および各受け入れ人数は以下とおりを予定（事情により変更の可能性あり）。
本科目受講希望者が定員を越える場合には抽選となる。
また、各受け入れ先での活動希望者が受け入れ定員を越えた場合は、話し合い・希望理由書の内容により選考する。

< 実習の受け入れ先（予定）、受け入れ人数は自治体による >
県内各企業、自治体など

【実習費用について】

現地までの交通費や宿泊費などで実費負担があります（例年2万円程度）

【自学自習について】

期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、またインターネット等により様々な事例を調べる。他のインターンシップ履修生と意見交換を積極的に行う。

【自学自習のためのアドバイス】

自分のインターンシップについて授業時に紹介できるよう準備する。他の発表について理解し、「課題分析」

について考察し情報収集を行う（10時間）

インターンシップ先の予備調査資料について授業時に発表できるよう準備する。（5時間）

インターンシップに関する事前調査や実施中に振り返りを行う（30時間）

活動報告会に向けて、報告資料を作成する。（15時間）

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー オフィスアワー：木曜日2時限目 研究室：研究交流棟6階

その他、必要であれば、
担当教員にメールにてアポイントをとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学外で活動を行うので、対人関係など社会の基本ルールを十分に守ること。

本授業では、受け入れ先ご担当者様、同じ場所で活動をおこなう学生同士、そして担当教員とのコミュニケーション力が求められます。「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」を率先して行うよう心がけること。

受講には、学研災および学研賠の加入が求められる。

旅費の自己負担はありません（受け入れ先様負担）が、移動は各自でおこなっていただきます。活動場所の検討に際し、各自移動手段・経路・所要時間を確認しておくこと（移動手段は公共交通機関とする）。

都市圏の学生と積極的に交流できることが望ましい。

なお成績については、後期終了後に評価します。

教員の実務経験との関連

学外でのインターンシップ等、実務に即した授業を行います。